

会 議 録

1 会議名

令和4年度第14回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項

- ・上越市消防団板倉方面隊の組織体制について（公開）
- ・Jーホールディングスグループの整理について（公開）

○協議事項

- ・板倉区の未来を拓く観光について（公開）

3 開催日時

令和5年2月16日（木）午後6時00分から午後7時35分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 市民活動室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委 員：平井達夫（会長）、古川政繁（副会長）、池田光男、小林政弘、植木節子、手塚哲夫、下鳥治、田中睦夫、庄山健、秋山秀夫、吉田重夫、長藤豊（1人欠席）
- ・事務局：板倉区総合事務所 古澤所長、一藁次長、米川次長、関根産業グループ長、市村市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、大堀建設グループ長、佐藤総務班長、小池地域振興班長、橋詰主査、金井主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【米川次長】

- ・会議の開会を宣言

【平井会長】

- ・挨拶

【古澤総合事務所長】

- ・挨拶

【平井会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を庄山委員に依頼。

4 報告事項 上越市消防団板倉方面隊の組織体制について事務局からの説明を求める。

【米川次長】

- ・資料1に基づき説明

【平井会長】

質問、意見のある方の挙手を求める。

【長藤委員】

今の説明の中で、消防部の増減あるいは定員の増減はないとのことだが、山部第二部が1班体制で可搬ポンプが1台減ということだが、山部第二部の主要な集落と、今までのどちらの消防部の可搬ポンプが撤去されるのか。

【米川次長】

管轄町内は中之宮、釜塚、不動新田、菰立となっている。可搬ポンプは、1台は中之宮の消防小屋に設置する予定で、もう1台については消防部の方でどこに設置するか検討している。

【下鳥委員】

各集落で消防団員になって欲しいと勧誘をしていると思うが、市では消防団員に入ってもらえるような広報はしているのか。

【米川次長】

新入団員の勧誘は、消防部ではもちろん取り組んでいただいているが、市としても、イベントを通して募集している。昨年まちづくり振興会で宮島地区で防災イベントを行った際に、消防団から出ていただき、新入団の勧誘を行ってもらった。また、板倉区だよりも消防団の活動を掲載するなどし、地域消防に興味を

持っていただくような形で周知活動に努めている。

【下鳥委員】

それはその方向でいいと思うが、所謂青年会についても少子高齢化と言ってしまえばそれまでだが、これからこの資料にあるようなことがずっと続くというようなことになれば、どんどん先細りだという感じがしてならない。何とか、一人でも二人でも、地域防災のために力になってもらえないかというようなところを前に出して、広報活動を続けてもらいたい。

【米川次長】

自分たちの地域は自分たちで守るという部分での地域消防活動なので、地域にお住まいの方から積極的に参画いただけるようなかたちで、事務所としても周知啓発を行っていききたい。

【長藤委員】

板倉方面隊の梯子登りが今年度地域の宝に登録された。これは実際には高野の集落でやっているが、高野だけでは人数が足りないので、針からも応援に行っている。これもこのままいくと存続が危ぶまれるという状況なので、そういうことが無いように区全体としても応援していききたいと思っているので、皆さんからも心掛けてもらいたい。

【米川次長】

今年度地域の宝として板倉方面隊の梯子登りが認定された。コロナ禍という状況の中で、なかなか団員の皆さんも訓練ができていない状況であったり、披露する場がない状況であったが、昨日部長会議の中で、来月の18日からオーレンブラザで地域の宝のお披露目会的なものが予定されている。その中で、梯子登りの法被やまといなど梯子登りで使うものを展示する中で、皆さんに知っていただくという取り組みが文化行政課の方で予定されている。消防団の皆さんも前向きで、ここにいろいろな情報を展示していく中で盛り上げていきたいという想いも聞いているし、地域全体でも盛り上げていってほしい。

【平井会長】

他にないか。

(意見、質問なし。)

この件については以上とする。

次に、Jーホールディングスグループの整理について事務局に説明を求める。

【関根G長】

- ・資料2に基づき説明

【平井会長】

質問、意見のある方の挙手を求める。

【長藤委員】

資料の3ページ目の組織体制の中で、支配人のところに「当面現在の事業会社の代表取締役を施設の支配人とする」と書かれているが、噂を聞くと現在のやすらぎ荘の支配人は抜けると聞いている。そのところは実際どうなりそうなのか、支障がなければ教えてもらいたい。

【古澤総合事務所長】

まだ決定ではないが、新会社が変わるので公表はまだされていない。

【小林委員】

とりあえず、やすらぎ荘が存続するので、我々とすれば安堵感があるが、吸収合併により、(株)黒倉ふるさと振興が解散となるということであるが、50%出資している株主や役員の皆さんがいらっしゃるが、その辺は整理するのか。それとも新しい会社に引き継がれるのか。

【関根G長】

個人株主については、すべて残余財産を配分するという考えとなっている。新しい事業会社については、市が100%出資する第三セクターというかたちになる。各株主の皆様には、資料をもとに3回説明会を開催させていただいている。この資料についても、株主の皆様へはお配りしている。株主の皆様には、内容についての確認書を提出していただいて、そちらの方もほぼすべて回収が終わっていると聞いている。

【小林委員】

4つの施設の中で、ふしんの里やすらぎ荘は規模的に小さいし、地理的にも不利な面がある。あるいは集客の増加が難しい環境になると思うが、今読ませていただいて、新たなアクションプランについては当然実行してもらわなくてははいけ

ないが、地元との信頼関係や意識の醸成についてはどのように考えているか。地元に対してしっかりと説明し、これからの戦略についてしっかりと成果が上がるようにこれからどのように進めようとしているか聞かせて欲しい。

【古澤総合事務所長】

地元の括りというのは区全体か。

【小林委員】

特に、寺野地区のことである。

【古澤総合事務所長】

先般、株主に対する説明会が2月3日に開催されたが、その中で新社長となる今のJ-ホールディングスの田知花社長といろいろと意見交換をした。新会社になった暁には新しい社長が地元の皆さんと意見交換をする場を私としては作っていききたいという話をしたところ、社長はやはり当然地元の皆さんと連携しながらやっていきたいということであった。今小林委員が仰られたように、山間地にある、他の施設と比べると小さい施設なので、そこに来る目的が、何のために来るのかというところを、他に柿崎、大瀧、吉川にないものがあるとすると、やはり山菜や、そこでしか食べることができない食材をPRしながら出していく、そういう方針の中で、そのためには地域の皆さんから食材を取ってきてもらうとか、そこで購入したりとか、そういったことで信頼関係を築き上げていかないと、中々発展もないだろうというところがあるので、私としては、社長と話しましたが、新しい会社を機に、もう一度地域の皆さんと話し合いをしながら、地域の宝でもあるというところを再認識していただいて、一体的に取り組んでいきたいと思うし、さらに寺野地区だけでなく、区全体の皆さんにも、利用促進を、もっとやすらぎ荘を使っていただくというような、そういった周知を事務所としてもやっていきたいと思うので、また新たに地域の皆さんとの関りを構築していきたい。

【小林委員】

今の所長の説明で分かったが、今話題になっているリフレ上越山里振興（株）の不祥事があったが、ニュースを見ている限り、上に立つ人が当て職だから私は分からないというような、非常に責任回避というか、発言を聞いて私はそのよう

に受けとめた。そういうことがないように、行政が企業ガバナンスをしっかりとや
っていかないとああいう組織になってしまうと思ったので、ぜひこれからも続け
ていけるように積極的にチェック機能を働かせてもらえるようお願いしたい。

【古澤総合事務所長】

委員が仰られたとおりだと思う。リフレ上越山里振興（株）の件については、
くわどり湯ったり村の指定管理の取り消し、ヨーデル金谷については昨日から営
業再開している。新会社の姿というところが、経営改善計画の概要の6ページに
あるが、組織として経理に関しては一本化するの、その一本化した経理の中で
適正な執行、同じ目で見るとということが可能になる。今回はあくまで指定管理者
の責任になっているが、そこは当然ながら経営状況は毎月ないし2か月に一度く
らいの単位で報告をしてもらったものを精査していくということを引き続き対応
していきたいと思うので、今のご意見は貴重なご意見として承らせていただきた
いと思う。

【田中委員】

我々、地域協議会としても、部会としても、やすらぎ荘とは何度か改善に向け
ての意見交換を行ってきたが、アクションプランのような具体的な話は出てこな
かった。支配人が変わるという話もあるが、自分たちが置かれている立場を切実
に、もう少し切迫感を持って対応したらどうかという話を何回かしてきた。こう
いう中で、新しい体制づくりの話が出てきたので期待はしているが、このアクシ
ョンプラン、数値目標のやすらぎ荘の欄を見ると、一歩先の未来像、里山豊かな
四季の中豊富な山の幸でもてなすと具体的にこのようなものは今までも全くやっ
ていなかった訳ではなく、工夫をしてやれば田舎のいいところはあるので、そう
いうようなやり方というのはもっと早くから具体策としてできたのではないか。
あと、アクションプランの中も、結局券売機導入とか食器返還のセルフ化とか、
効率化を図るという面からするのも、こういうのはやっている人間からすれば当然
考えていたのかなと思うが、それが新しいプランの中に乗っているということは
やはり考えが足りなかったのかなと私は思う。我々地域協議会としても、板倉の
宝として残すにはどのようにしたらよいかと取り組んできたが、ぜひそのような
機会があれば我々の勉強会の中に、新しい体制の中で意見交換しながら存続に向

けて取り組んでいきたい。新しい体制の中で、一度地域協議会としてもお越しいただいて意見交換をしたいと思っている。

【古澤総合事務所長】

まさに田中委員が仰ったようにいろいろな意見をしっかり受け止めて、そこで改善なり取り入れて次につなげていくという体制は重要だと思っている。今までは、そういう体制ではなかったというのは現実にはあったかと思うが、今後新しい会社になった暁には、いろいろな意見を聞いて、取り入れるものは取り入れるということが基本だと思っている。ぜひ、いろいろなご意見をいただく場を作りたいと思っているし、地域の皆さん、地域協議会の皆さんからの意見も大いに出してもらいたいと思っている。地域に愛されるような施設となるように、もう一度リニューアルして進んで行きたいと思っている。

【手塚委員】

今まではコロナの関係で地元の方でもやすらぎ荘とタイアップしてということがなかなかできなかったというところがあるが、ここへきてコロナの方もだいぶ収束し、昨年5月から地域おこし協力隊も来て、いろいろとアイデアを持っているので、私たちの今までやってきた事業もどうしてもマンネリ化があると思うので、いろいろなアイデアを出しながらやすらぎ荘の側面としてバックアップしていくような体制を作り、地元としても精いっぱいやっていきたい。

【平井会長】

他にないか。

(意見、質問なし。)

この件については以上とする。

次に、自主的審議事項の板倉区の未来を拓く観光について事務局に説明を求める。

【小池地域振興班長】

- ・資料3に基づき説明

【平井会長】

事務局から説明があったが、各部会長からも補足説明をお願いする。まずは地域振興部会の長藤委員をお願いする。

【長藤委員】

地域振興部会の方は、具体策よりも組織の方について重点的に話が行われた。この3番目に書いてある地域おこし協力隊についてというところだが、最初は観光面に対して応援をいただくのはどうかという話が出たが、事務局から板倉区全体ではなく個別の地区の地域おこし協力隊でないと募集できないという話であった。なので、寺野地区に入っているし、筒方地区についても募集をかけているものである。筒方の協力隊が決まってくれば、板倉区全体の観光に関しても協力してもらったらどうかという話が出た。また、個別の具体策でも一部出ているが、生涯学習サークルが減ったと感じるというこの辺りが、例えば写真サークルだとか活動が見えなくなっている。また、光ヶ原高原でヒルクライムというのは私が出したものだが、ヒルクライムというのは自転車のヒルクライムレースというものであって、新潟県では佐渡でこういったものが行われている。板倉ではそれと同規模のものができるということと、実際にここからヒルクライムで光ヶ原まで上がっているのを動画で上げているケースもあるので、そういったものをというのでこの話があった。

【平井会長】

次に健康福祉部会の小林委員にお願いする。

【小林委員】

健康福祉部会は2月3日に小池班長を交えてフリートークをさせてもらった。話の要点については記載のとおりである。補足をすると、話し合いの前に前段で、板倉区の観光とか地域振興の位置付け、定義付けをどうするかというところからスタートすべきということで、前回会議資料で事務局がA3にまとめた目標にあるような、現状の地域資源を活かして地域の宝を次世代に引き継いでいく、これがベストであるという合意の上で話し合いを始めた。出された意見として、しっかりと観光開発とか地域振興について方向性を考え、方針を決めてスタートしたほうがいいのかといった意見や、過去の前例に拘らず新たな板倉区の観光、地域振興のビジョンを描いていく等、関係者が集まって真剣に協議をしてくべきである、そのための組織の旗振り役は観光公社が本来であれば理想であるが、現実的には人的、組織構成上、難しいであろうと、これは誰しもが理解す

るところだと思う。よって、旗振り役はまちづくり振興会がいいだろうと、板倉区全戸の人員と会費で成り立っている面もあるので、活動内容としては観光公社と重なる部分もあるので整理をしなくてはならないが、まず組織を一本化する体制づくりに向けて、地域協議会が行政と一緒に主体的に進めるべきではないか。要するに、組織がしっかりして実践できる部隊を作っていかななくてはならないだろうということである。光ヶ原高原の話も出たが、現状ではキャンプ場とか信越トレイルなど、集客は限定的であり、また農業を中心に民間の活力も入ってきているということで、この辺もこれからどういう方向性を決めたらよいかと、しっかりと決めた方がいいのではないかという意見もあったが、今ある光ヶ原高原ファン倶楽部の組織のビジョンが良く分からないということでそういった話もあった。結論的には、地域協議会が音頭を取って考え方が違う組織を板倉区の地域活性化、持続できる組織作りに向けてスタートさせるのが最初だろうということで、時間を掛けてでもいいので、合意形成をしっかりと、将来の板倉区を作っていくのだということでもまとめさせていただいた。

【平井会長】

次に産業建設部会の田中委員にお願いする。

【田中委員】

2月6日に部会を行った。内容はここに記載のとおりだが、補足させてもらおうと、今年寺野遊雪まつりがなくなった。特に去年は花火も大々的に上げていて私も現場で見たが、やはり冬の花火もいいねということでその辺はやはりさみしいという話をした。それから、集落によってはどんど焼き、塞ノ神が人数の問題や材料の問題でやっていないところもあるということで、ニュースなどを見ていると、盛大に観光的に大きなかまくらを作ったり、所謂竹で組む、藁でかやを囲むというのを大きく作ってアピールしながら、こどもからお年寄りまで集まりながら大々的にアピールするところもあるので、そのようなものをやったら面白いのではないかという話があった。具体的には町民グラウンドが今ほとんど使われていないので、昔はあそこで各校区別の体育祭的なものをやっていたのもあるので、そのようなものができるかどうかは別だが、板倉区全体でそういった大きなイベントを企画するのも面白いのではないかというような話があった。それか

ら、フリマのことも書いてあるが、今の総合事務所の入口の脇にアイス屋があるが、昔あそこで月1回朝市みたいなものをやっていた。私も何回か来たことがあるが、そういうようなものを趣向を変えながらやったら面白いのではないか、集客もあるのではないかということで、ここでフリマを取り入れた中で場所も一か所ではなく、ゑしんの里記念館とかやすらぎ荘といった格好で、変わった取り組みができるのではないかという話があった。地域独自の予算については来年度から始まるが、当初のイメージとしては例えば2,000万円とか3,000万円くらいの予算要求をして、それを板倉区独自でその中から行政が中心となるか、地域含めて検討するかは別にしても、区で自由に使えるお金があってもいいのではないかと、私も当初思っていた。他の人もそういう考えがあったようだ。蓋を開けてみたら、今年は全然違った意味での、名前の変っただけの今までの地域活動支援事業と大して変わらないような中身、しかも我々地域協議会が全然関わらないような格好になっているので、どのように持っていくかは別だが、そういうような反省を踏まえた検討会、取り組みについての新しい考え、こういうことというのは来年度は地域独自の予算の始まりの年でもあるので、市長はどのように考えているかは分からないが、そのようなことは必要ではないか。私は個人的に前から思っていることだが、地域協議会には会長副会長がいる。所謂慶弔の話であるが、結婚式だとかこどもが産まれたとかいうのは関係がないが、不幸があったりした場合、板倉区地域協議会でも昨年委員の一人が亡くなったが、そういう時には会長副会長が顔を出し自腹を切っている。本来は役職なので、公の顔としていくのであれば地域協議会としても予算を持つ必要がある。その中で代表として顔を出してもらい、自腹を切ってまで参加するものではないと個人的には思う。また、祭りとかイベントの時とかは地域協議会の代表としての案内を、私が板倉まちづくり振興会の事務局にいて企画した時に出したし、今も多分届いていると思う。その時も自腹を切られていると思う。ご存じのように会長副会長は他の委員と同じ費用弁償1,200円の中でやりくりしている実態、これは改善していかななくてはいけないということで、地域独自予算を来年度は提案したらどうかということでその辺も考慮させてもらった。

【平井会長】

事務局、各部長から説明があった。様々な意見があった。地域協議会としても今後どのように審議を進めていくのか決めていきたいと思う。

質問、意見のある方の挙手を求める。

【下鳥委員】

資料3のことについて皆さんに聞いていただきたい。この中にあるものの中には、一番多いのはふしんの里観光公社、続いて光ヶ原高原、やすらぎ荘というような文言が並んでいる。この前の議題にもあったと思うが、非常に今やすらぎ荘が厳しい状態ではないかと思う。なぜなら、新会社、上越市が100%出資の新しい体制でもっていくのだと先ほど説明があった。その反面、その言葉の奥には100%持っているので、今度ビジネス上採算ベースに乗らなかったら辞めますよと、すごく強い声で言われると思う。その第一の矛先はやすらぎ荘だと考えている。ずっと議題の中にあるが、本当に危機感を持っていないとやすらぎ荘は上越市の方から切られてしまう。板倉区の未来を拓く観光について審議しているが、委員の皆さん、総合事務所の皆さんもそうだが、その辺のところはよく考えていただきたいと思っている。

【平井会長】

他にないか。

【古澤総合事務所長】

前からも話をしていたが、やすらぎ荘を含めたJ-ホールディングスの指定管理の期間は令和4年から6年となっている。令和5年度は中間の令和6年度は最終の指定管理委託の期間なので令和5年度にはある程度の方向性を示しながら、新会社の方にそのまま指定管理を続けていくのか、または形態を変えていくのかというところの大きな基点になるのが令和5年度と思っている。先ほど話をしたとおり新会社になるので、令和5年度は地域の皆さんのご意見とか、地域の皆さんの協力とか、いろいろな活動とかも含めて、もう一度やすらぎ荘をどうするかということも含めて、また新たな感覚で進めていきたいと思うし、当然ながら6年度以降の7年度からの指定管理の更新についても、今の形を繋げていければベストだと思うが、例えば中身を多少なりとも変えていくというのも選択肢としてあるかもしれない。そういった意見も令和5年度にいただきながら進めてい

きたいと思っている。

【下鳥委員】

産業建設部会長からも話があったと思うが、非常に部会の中ではこの会議の雰囲気とは違って非常にいい話が多く出ていた。なぜかというと、みんなやすらぎ荘があるいは光ヶ原高原が好きだから何とかしようよという気持ちの中から、ものすごくいい話が部会の中で多く出ている。紙の中には文字として上がってきていないが、やすらぎ荘を残すためにはどうしたらいいかという話がものすごく出ている。そういったところを大事にさせていただいて、やすらぎ荘をずっと続けていけるようにしていただきたいと私は心から思っている。

【古澤総合事務所長】

まずは地域の皆さんが、今下鳥委員が仰ったような気持ちの人が一人でも多く増えていくように、いろいろな機会を通して私たちも周知していきたいと思っている。そういった中で知恵をいただければ、対応をしていきたいと思っている。

【下鳥委員】

部会長から話があったが、いずれにしても、部会の中ではいい話が多くあったと話をさせてもらったが、それにはどうしても資金、予算がいる。その辺のところは所長はどのように考えているか。

【古澤総合事務所長】

先ほどのご意見の中で地域独自の予算という話もあったので、その中身についても、例えばイメージで話をスタートして、それを具体的にどうやっていくかということで、またいろいろな議論を重ねながら、令和6年度の地域独自の予算については今回と同じ9月くらいを目途に事業を計画して予算要求する流れとなる。そこは新年度入ってから早々に、イメージを交わして、それに向けてどのように取り組んでいくかということ、また部会なのかは分からないが、いろいろな機会を通じて話をさせていただき、事務所も中に入りながら提案に繋げていければと思っている。まずは、地域独自の予算というのがそこに繋がっていくというように考えている。

【下鳥委員】

独自予算というのは私達には見えにくい。理解しにくい。どのようにして予算

組がされるのかよく分からない。また分かったら、機会を捉えて教えてもらいたい。

【古澤総合事務所長】

冒頭にもお話ししたが、令和5年度の地域独自の予算の内容については、次回の地域協議会の中でお示しさせていただきたいと思っている。そこで、例えば他の区でどういったものを出しているかというのも参考になると思うし、何が足りなくてどういようなものを作りたいということをイメージを膨らませてもらえれば、それに沿って進めていきたいと思うし、ぜひ地域協議会が提案することもできるし、総合事務所が主体となって進めていくこともできるので、そういったことも想定しながら板倉区の地域振興につなげていければと思っている。

【下鳥委員】

部会長が言わなかったことだが、例えばアイスクリーム屋の隣で市を開いた、やすらぎ荘で山の山菜など例えば通常価格100円であれば50円で販売することはとてもいいシステムだと思う。その時に、時価100円のを50円で、多少傷ついたり恰好が悪いのもあるかもしれないが、その時に出店料として1割とか、そういったものを私たち地域協議会で積み立てることは可能か。

【小池地域振興班長】

部会でいろいろとご意見をいただいたときに、どうしても地域協議会の自主財源がないから、それを何かで稼げないかという時に、下鳥委員からそのような意見があった。どのようなやり方ができるかは今後相談させてほしい。

【下鳥委員】

いずれにしても、何かやるといっても何らかのお金がかかる。地域協議会として少し持っていたらいいのではないかということである。

【小池地域振興班長】

委員の皆さんで不要品を持ち寄ってフリマで売ったお金を財源にしたらいいのではないかという意見が部会に出ていたかと思うが、それはふれあいまつりでもできるのではないかという話もあった。また皆さんと一緒に取り組めるものがあれば、話し合いの中で進められればと思う。

【平井会長】

他にないか。

(意見、質問なし。)

では今後も、委員の皆さんも地域協議会委員としてどう取り組んでいったらよいか考えておいてもらいたい。なお、地域振興部会と健康福祉部会では部会のテーマを持っている。そちらのテーマについても話し合われたと思うので発表をお願いする。まずは、地域振興部会の長藤委員をお願いする。

【長藤委員】

地域振興部会では、板倉区の各種団体が連携した地域活性化についてということで自主的審議を進めている。今回の板倉区の未来を拓く観光についてということで、ゑしんの里観光公社、板倉まちづくり振興会、いたくら夢創會、これらの取り組みを学んだりしてきたので、この辺も我々の部会でやっていたことに繋がるが、この3者から聞いたことは、観光についてということが主だった。我々の部会のテーマは観光ということに捕らわれず地域の活性化ということで、今連携を図っていこうとしている。部会の話し合いの中でゑしんの里観光公社と板倉まちづくり振興会、光ヶ原高原ファン倶楽部、黒倉ふるさと振興の方の4者で打ち合わせをした経緯があるとの情報を得たので、それらに参加させてもらい進めさせてもらうという話もあったが、その後観光公社の事務局長と話をする機会があり伺ったところ、過去にそのようなことが行われたというだけで、今現在の板倉まちづくり振興会の状況、黒倉ふるさと振興の状況、光ヶ原ファン倶楽部の方の範囲が光ヶ原に限られているといったところから、今後継続する予定はないと言われた。そのような状況からすると、当部会としても改めて観光以外の面でどういったかたちが連携できているのかというのを改めて部会の中で検討しながら進めていきたいと思っている。

【平井会長】

次に健康福祉部会の小林委員をお願いする。

【小林委員】

健康福祉部会の報告の前に今ほどの観光をめぐる話の中で、昨年9月に3団体と意見交換をしたときに、共通課題として組織強化、それと意欲ある人材育成が必要だというのは3団体とも強く言っていたと認識しているので、やはり、組

織をどうするかというのをしっかりと音頭を取ってやるべきだと私個人的には思う。

健康福祉部会の報告だが、テーマは高齢者や支援を必要とする人にきめ細やかな支援を行うための仕組みについてということで審議をしてきたが、昨年の連協の役員との意見交換会の中で審議してきた内容を説明させていただいた。町内会、民生委員、防災士と連携したイメージ図と自主防災組織図に民生委員と防災士の立ち位置を明示した自主防災組織図を説明し、その中では町内会長、連協の会長へは意識付けと共有化が図られたものだと考えているが、いろいろと意見交換の場で様々な課題があることも分かった。例えば、前向きな町内会長からは、町内会、防災士、民生委員の連携が必要だろうという意見や、民生委員や防災士の立ち位置、活動への理解不足、連携方法が分からないといった、集落あるいは地区によっては非常に温度差があった。また、人口減少に伴う小さい集落の町内会長からは防災士の活用について、隣接する集落と連携した防災訓練等の必要性についての意見もあった。そういった意見を集約すると、個別の課題がかなりあるので、防災士会とかあるいは民生委員の中で協議をしていただく事項であると思っているし、我々としては意見交換の場で実情を把握できたのは大きな成果だと思っている。それらを踏まえて2月3日の部会で話し合った結果、これ以上部会として検討しても各団体の固有の課題に踏み込むようなかたちになってしまうので、今まで審議してきた内容をこの辺で一区切りとして、地域協議会だよりで板倉区全戸にお知らせをすることによって、一つの結論付けではないが、これによってこのテーマについては審議を終結するというにしたいと思っている。なお、事務局からは地域協議会だよりの掲載については、3月25日号に掲載できるようにしたらどうかとの提案があったので、それについてこれから検討したい。一応、これをもって終結させたい。

【平井会長】

地域振興部会、健康福祉部会から説明があったが、質問、意見のある方の挙手を求める。

【庄山委員】

板倉区の未来を拓く観光ということで、前回会議で配られたA3の自主的審議

事項の資料を見てみると、今後の進め方ということで、今まで小グループで各部会でやってきた全体会で今度は意見の発表を行い、そこで地域協議会としての考え方をまとめる。最後に、ふしんの里観光公社、板倉まちづくり振興会、夢創會他、地域団体との意見交換をやるということになっている。これに沿っていった方がいいとおもうがいかがか。

【平井会長】

今の意見に対し質問、意見のある方の挙手を求める。

(質問、意見なし)

では、その線に沿って進めていく。

では、健康福祉部会の高齢者や支援を必要とする人にきめ細かな支援を行うための仕組みについてについては、板倉区内全戸に審議内容についてお知らせすることで、審議終了したいとのことだが、皆さんそれでよいか。

(異議なし)

では、審議終了とする。

地域協議会だよりに掲載する内容については、健康福祉部会と、編集委員会と事務局で連携して作成してほしい。

次に6その他に移る。事務局から説明をお願いします。

【小池地域振興班長】

地域活動支援事業報告会について、3月3日午後6時30分から板倉コミュニティプラザ市民ホールで行う。一般の参加者も無線等で周知を行うが、皆さんからも声掛けいただき多くの方に来ていただきたい。

地域協議会だよりの編集委員会は3月6日午後5時30分から行う。担当委員は出席をお願いします。

【平井会長】

・次回会議日程について確認。

他にないか。

【田中委員】

事務局をお願いします。3月3日の報告会の件だが、今日の地域協議会の開催の無線放送が、私の記憶だと今朝1回だけであった。

【小池地域振興班長】

3回は流している。

【田中委員】

そうであればいいのだが、報告会の放送の時は出来たら地域独自予算についても説明を行いますということで周知をしていただきたい。

【小池地域振興班長】

放送の内容については検討し対応する。

【平井会長】

他にないか。

(意見、質問なし。)

その他については以上とする。

【古川副会長】

・挨拶

【米川次長】

以上で、第14回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-78-2141 (内線123)

MAIL : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。